平成二十三年三月

蟹江町歴史民俗資料館

年報

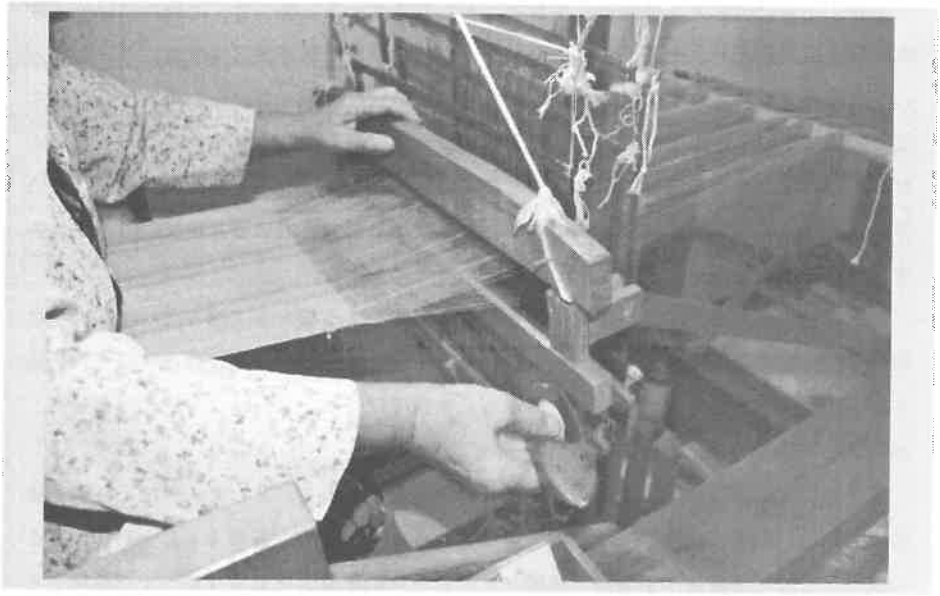
第三十一冊

目次

一　「沿革誌」より……1
二　事業概要……2
三　資料の収集・保管……3
四　展　示……10
五　調査・研究……14
六　情報提供……15
七　教育普及……16
八　庶務報告……24
九　文化財保護……26

蟹江町歴史民俗資料館特別展示

尾張木綿　手紡ぎ・手染め・手織り　作品展



平成21年11月14日（土）～12月13日（日）

（月曜休館）　AM9:00～PM5:00　入 場 無 料

場　所　蟹江町産業文化会館 1階 企画展示室
（蟹江町大字今字蟹江浦23番地4）

主　催　蟹江町教育委員会・機織染色学習会

問い合わせ先　生涯学習課歴史民俗係（歴史民俗資料館）
０５６７－９５－３８１２

特別展開催にあたり

このたび、蟹江町生涯学習自主グループ「機織染色学習会」による作品展示会が第２０回を迎えることになりました。

機織染色学習会は、昭和６３年（１９８８）、蟹江町歴史民俗資料館が開設した講座「伝統工芸学習研究会・機織染色学習会」としてスタートしました。当時の歴史民俗資料館長山田文男氏が、その前年に完全な形で寄贈を受けた結城機（ゆうきばた）をもとに、収蔵庫で破損したまま保存されていた結城機数台を修理・復元し、展示するだけでなく実演しながら利用者に対して「尾張木綿」への理解を深めようと、関心ある方々に呼びかけ講座会員を募ったことに始まります。尾張木綿の研究家である佐貫尹氏（当時県立起工業高校教諭）・美奈子氏により、機織機や糸車など周辺道具の使い方や草木染を主体とした染色技術などの手ほどきをいただきました。

平成２年（１９９０）、習得した技術の成果を発表する場として第１回の作品展示を開催し、毎年作品展を行って来ました。平成５年（１９９３）、愛知県で開催された第５回全国生涯学習フェスティバル生涯学習見本市では作品と共に会員も交代で参加し、来場者へ実演指導などを行いました。

平成６年度以降、生涯学習自主グループ「機織染色学習会」として、歴史民俗資料館企画展示室を中心に毎週２回ほどの学習活動を行っています。毎年１１月上旬には、その成果として「手紡ぎ・手染め・手織り」をテーマに産業文化会館ロビーで作品展示を開催し、伝統工芸「尾張木綿」を、親しみやすく身近なものとして理解を深めていただいています。

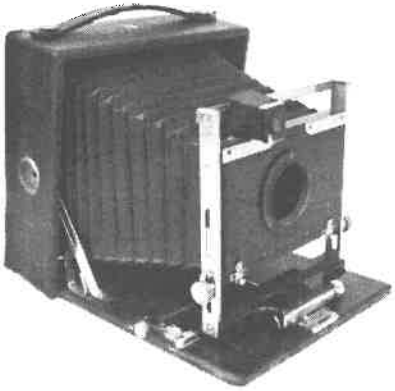
今回、作品展示が第２０回目を迎えるにあたり、当町が推進する「行政と住民による協働のまちづくり」の一環として、当館と機織染色学習会の協働で特別展を開催する運びとなりました。ご協力をいただきました会員各位を始め、関係各位に対しまして、ここにお礼申し上げる次第です。

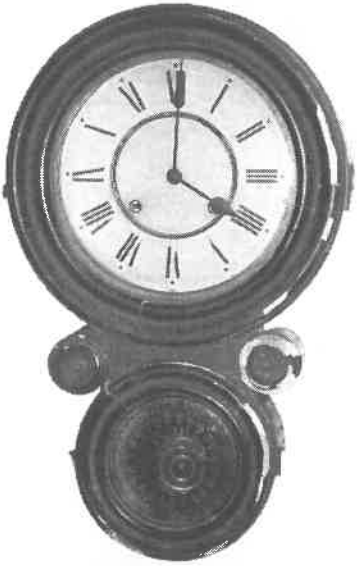
平成２１年１１月吉日

蟹江町歴史民俗資料館・機織染色学習会

蟹江町歴史民俗資料館特別展

120年前のくらし





平成22年1月30日(土)～3月28日(日)

月曜休館　午前9時～午後5時

場所　蟹江町産業文化会館　1階　企画展示室

(蟹江町城一丁目214番地)

主催　蟹江町教育委員会

問い合せ先　生涯学習課歴史民俗係（歴史民俗資料館）

TEL/FAX　0567-95-3812

開催にあたって

蟹江町が誕生したのは、市町村制が公布されて間もない明治２２年（１８８９）年１０月１日のことでした。それから町のあゆみは続き、昨年１０月に１２０周年を迎えました。

今まで、蟹江町歴史民俗資料館では、常設展や特別展の中で町政のあゆみや時代の流れを取りあげ、紹介してきましたが、蟹江町が誕生した時代について大きく取り上げ、焦点をあてることはありませんでした。そこで今回の展示では、蟹江町が誕生する基となった明治初年から、現在の蟹江町の姿がほぼ形成された明治末までの時代に焦点をあて、当時の世相や人々のくらしについて、関連資料を展示し紹介したいと思います。

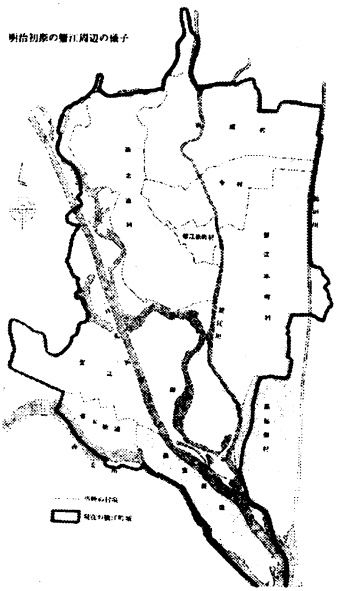
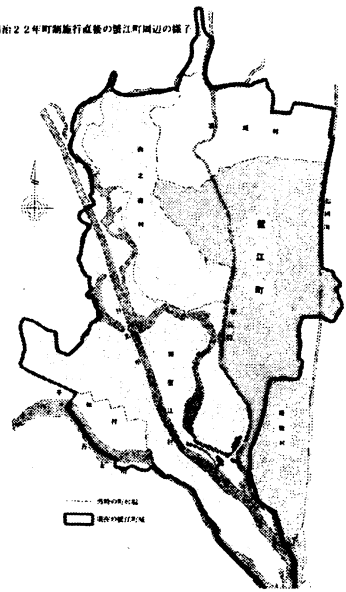
なお、今回の展示に際しまして、博物館明治村より資料をご貸与いただきました。この場を借りましてここに厚く御礼申し上げますとともに深く感謝申し上げます。

平成２２年１月吉日

蟹江町歴史民俗資料館

蟹江町の誕生

現在の蟹江町は、江戸時代以前、蟹江本町村、蟹江新町村、今村、西之森村、須成村、西福田村（一部）、蟹江新田、鍋蓋新田、善太新田（一部）の９つの村々に分かれていた。１８６８年江戸から明治へと時代がかわり、明治４年（１８７１）廃藩置県により尾張地域は名古屋県に属された。翌年名古屋県から愛知県に改称、９年（１８７６）に三河の額田県も愛知県となった。１１年（１８７８）郡区制が敷かれ、現在の海部地域の東部は海東郡、西部が海西郡になり、当地方は海東郡に属することとなった。２１年（１８８８）４月に政府が市制町村制を公布すると、これを受けて愛知県では明治２２年（１８８９）１０月１日より実施され、同時に蟹江町が誕生した。

この時誕生した蟹江町は、蟹江本町村、蟹江新町村、今村と西福田村の一部が合併したもので、現在よりもかなり狭い町域であった。しかし、２３年（１８９０）年現在の人口が６，２３６人という、半田や常滑に並ぶ規模の町であった。また、現在の町域には他に西之森村（人口９９２人）、須成村（人口１６１６人）、新蟹江村（蟹江新田と鍋蓋新田が合併、人口１８７１人）、千秋村の一部（善太新田、鯛江新田、大野村が合併、人口１６１２人）が存在した。

初代の蟹江町長には蟹江次郎が就任した。役場の位置は定かではないが、当初蟹江氏敷地内におかれていたようである。その後も位置はかわりつつ大正時代になるまで庁舎が建てられることはなかった。